

現代史を読み解きより良い未来を考える

指定校2年次 長野県伊那弥生ヶ丘高等学校 矢嶋 春香

(1) 本校の新聞活用 (NIE) の現状

- ・指定校1年次の昨年度は美術の時間に新聞を用い、新聞の記事から作品を仕上げることをおこなった。2年次となる今年度は、社会の現代史の授業で新聞を取り扱ったほか、同じく美術の時間で新聞を使用した。
- ・普段の生活では、新聞は図書館においてあり、生徒たちが自由に読むことが可能である。主に、小論文や面接などの進路実現に関わる場面での使用が主である。
- ・研究対象学級の生徒の実態は、家庭には新聞があるが積極的には読まない。

(2) 実践のねらい (育てたい力)

- ・自分自身で物事を「知る・考える・行動する」ことの重要性・面白さを学んでもらう。
- ・自分の意見・考え方・興味などを自覚する。
- ・共通点や差異などに着目して多面的・多角的に考察・表現する視点を養う。
- ・よりよい社会の実現を考える人の育成を目指し、現代の現状を捉え、多面的・多角的に考察・構想する力を育成する。

(3) 研究の概要

- ・対象生徒 高校3年生 12名
- ・教科 現代史
- ・授業計画

全8回の授業を以下のようなテーマで進めました。

- 第1回 「新聞を知る」
- 第2回 「新聞記事を知る」「私が気になった記事探し、発表」
- 第3～5回 「まわしよみ新聞づくり」
- 第6～8回 「スクラップ新聞づくり」

●第1, 2回

普段新聞をあまり読まない生徒達のために、新聞とはどういうものなのかということを知念毎日新聞社の方に説明して頂きました。新聞の歴史、構成、記事に関して、各新聞社の違いや、記者の方々の1日のスケジュールなどお話ししてもらい、その後、自分が気になった記事を1つ切り取り、その記事について、プリントをもとにまとめ、グループで発表し合いました。

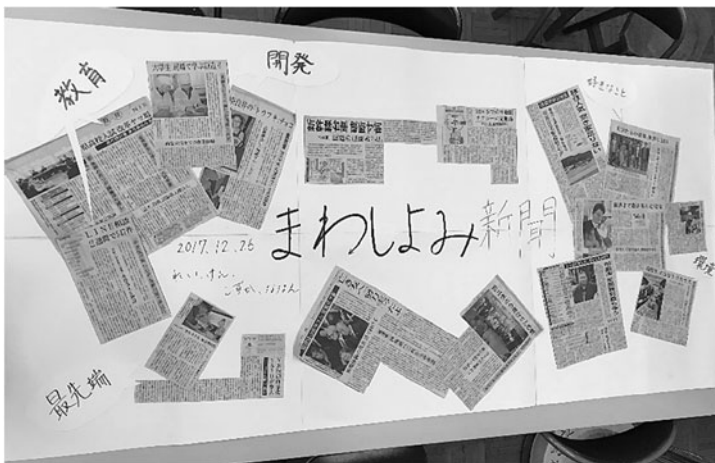
●第3～5回

まわしよみ新聞を作成しました。4人のグループを3つつくり、グループごとに作成しました。

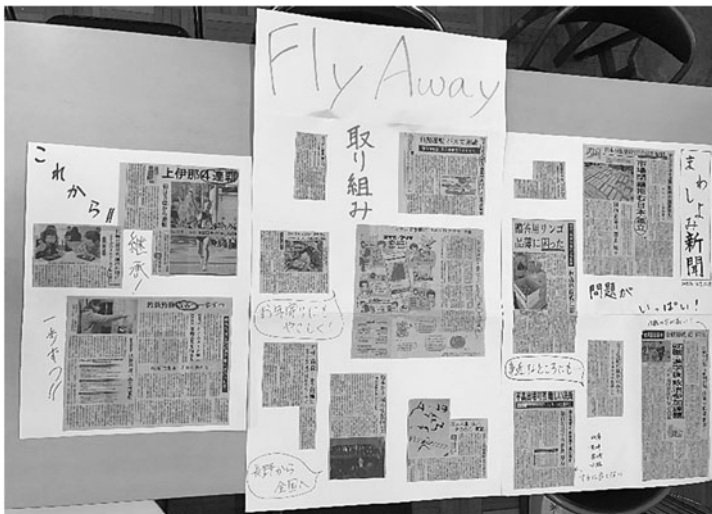
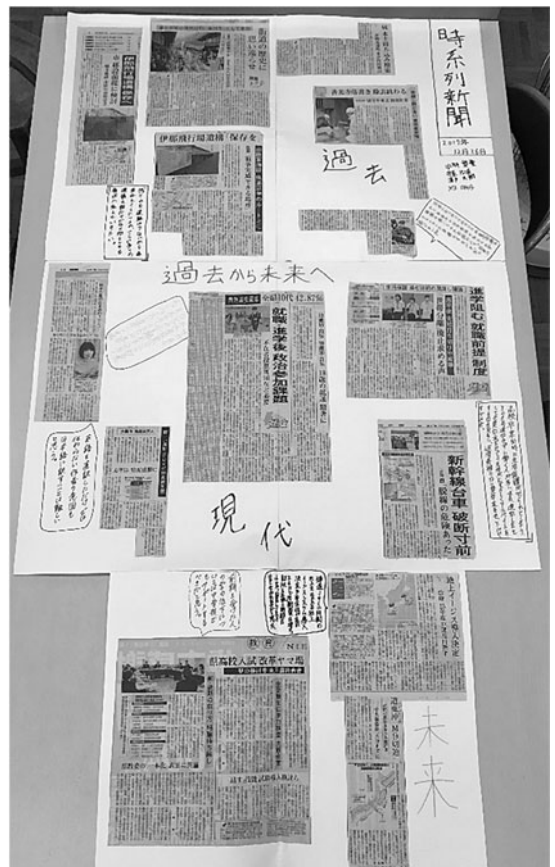
第3回では、まず、ひたすら自分の気になった記事を探します。(一人4記事を4日分の新聞から探す。1つの新聞から1つの記事。)その記事を切り取ったら、「私が気になった記事まとめカード」にそれぞれの記事を選んだ理由、意見や感想を書いてもらいます。(自分の経験をふくめて書いてもらいます。)

第4回では、その選んだ記事とカードをもとにグループで記事を紹介し合います。その後、集まった1グループにつき16枚の記事をどんな分野、どんなテーマに仲間分けできるかグループ内で話し合います。仲間分けは最低でも2つのパターンをつくるようにしました。

第6回では、その仲間分けをもとに、まわしよみ新聞としてまとめ、全部の記事に共通する大見出しを考えます。まわしよみ新聞ができたら、3つのグループ同士で発表します。このまわしよみ新聞づくりは次のスクラップ新聞づくりへの導入でもあります。



生徒達の作ったまわしよみ新聞



スクラップ新聞をグループごとに作成しました。まわしよみ新聞作成時と同様に「①記事選び・発表→②記事の仲間分け→③新聞づくり」の流れで進んでいきますが、スクラップ新聞の場合には、記事あつめの時にテーマをつけました。「現代という時間の流れ(現代史)を示していたり、よりよい未来を考えたりすることができる記事」です。テーマを限定することにより、生徒達がどう現代史をとらえているのかが、より明確になります。

記事選びでは、どうしてその記事を選んだのかという理由などについて、同じくカード(「現代史を読み解く記事」まとめカード)に記入してもらい、深く考えます。記事の発表では自分の考えを相手に伝える方法について学び、自分とは違った多くの意見・視点にふれます。

「現代史を読み解く記事」まとめカード

名前 _____

1. 「現代史を読み解く記事」について書こう。

新聞名	信濃毎日	新聞	29面	掲載日	2017年11月27日
見出し	署名集め「娘の死無駄にしない」				

2. 「現代史を読み解ける」と考えた理由を書こう。少なくとも一つは、自分の体験を含めて書こう。

①	バス運行会社の不正や事故がよく報道されるようになったから。
②	軽井沢のバス事故がきっかけとして業務の現場しが行われるようになったから。
③	今後、高速バスなどの利用機会が増えるから。

3. 記事の内容に対する意見や感想を書こう。

①	取材を求め署名を集めるのはいいと思う。 どうして=多くの人が知って、問題解決に協力できるから。
②	人だれと行ったからではない。 どうして=不正が行われたら事故は万が一のたふもなければいから。
③	約1000人分の署名が集まったのはすごい。 どうして=それだけ世間の関心があって、改善を求めているのだと思うから。

1. 「現代史を読み解く記事」について書こう。

新聞名	読売	新聞	3面	掲載日	2017年12月8日
見出し	0〜2歳児 対策も急務				

2. 「現代史を読み解ける」と考えた理由を書こう。少なくとも一つは、自分の体験を含めて書こう。

①	待機児童問題が深刻になっているから。
②	少子化にも影響するから。
③	保育園に並んでいたから。

3. 記事の内容に対する意見や感想を書こう。

①	無償化も必要だが、3万は待機児童を減らすために。 どうして=無償化より先にやる必要がある
②	0〜2歳児が対策をされているのに、まだ3歳以降は。 どうして=認可外に預けざるを得ないのは半数以上0〜2歳。
③	3万より少子化が優先。 どうして=働かざるがらうどもを育てたい人もいり、預けると3万円は必要

3万を減らす必要があるかもしれないから。

記事の仲間分けでは、「一見異なるテーマの記事だとしても、違った視点から見ると同じテーマの記事である」というような発見、物事を多面的・多角的に考えることを学びます。

新聞づくりでは、レイアウト・色合いなども考える中で他者への伝え方を学びます。16の記事の共通のテーマを考え、それを新聞名とすることにしたので、この行程では生徒達が非常に苦勞していました。(中々、記事の共通点を見つけることができませんでした。)



お互いに意見を出しレイアウトを考える





「ミライを守る！」

「CHANGE」



「Level up」

(4) 研究のまとめ

本校はセンター試験受験者が多いこともあり、特に社会科では「知る・考える・行動する」の「知る」部分に重点を置いてしまう授業が多くなっているように思います。よって、生徒達には、主体的・対話的というよりは受動的である場面が多いように思います。今回授業にNIEを取り入れてみて、話すのが苦手な生徒が頑張って伝えようとしている姿や、普段はあまり話したことの無い生徒が自分の意見をしっかり発表している姿を見て、教員として気づかされる場面が多くありました。生徒達の発言や話し合い中の内容も、回をおうごとに深いものになっていったので、彼らの成長を肌で感じることができました。

きちんと「知る・考える・行動する」という経験を生徒達に教員側が提供できれば、彼らにはそれぞれに発揮する力があることにも気づきました。授業の中でいろいろな場面をつくることによって(記事の発表、新聞づくりなど)、いろいろなタイプの生徒達がそれぞれ活躍できていたのも、授業をやっていて面白かったです。

(5) 残された課題

- ・16枚の記事に共通するテーマを考え、そのテーマを新聞名にしたのですが、ばらばらに集められた16枚の記事から、共通のテーマを見つけようとすると、「CHANGE」「ミライを守る!」「Level up」などどうしても抽象的な表現になってしまい、具体性にかけてしまう。
- ・生徒達が選んできた記事なので、授業としては生徒達の人生が背景となった記事をもとに進めていくことになる。
- ・時間に制約があったので、記事の理解が浅く、少し表面的になってしまった。もっと記事をお互いに読んでから話し合いができるとさらに深く考えることができたのではないかな。
- ・記事の大事なところにアンダーラインなど引いておけば、グループ内の仲間が記事を理解するときにわかりやすかった。
- ・仲間分けのキーワードに生徒達が迷っているときに、教員としてこちらからヒントをあげるような問いかけがもっとできるとよかった。